

教育研究グループ「教育結果」報告書

請告日 令和 2年 4月30日

グループ名	東京都奉仕・ボランティア教育研究会	フリガナ 代表者氏名	ヨシダ スミ 吉田 寿美
学校名 (代表者)	東京都立豊多摩高等学校 (吉田 寿美)	電話番号	03-3393-1331
研究テーマ	「奉仕・ボランティア教育を推進」 ー「習得・活用・探究」の過程から「深い学び」につなげる研究ー		
研究期間	平成31年 4月 1日から 令和 2年 3月31日 まで		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、東京都の学校設定教科・科目である「奉仕」の指導者養成のため、平成21年10月に「東京都奉仕研究会」として設立し、平成23年度には東京都教育委員会の研究推進団体となった。平成27年度に「東京都奉仕・ボランティア教育研究会」と名称変更し、学校教育におけるボランティア体験学習の内容・方法について実践研究を進めてきた。 本研究会は、毎年度8回の月例会を開き研究を進める一方で、平成24年度以降、「認定NPO法人さわやか青少年センター」とともに「スクールボランティアサミット」を毎年、企画・開催してきた。現在は「スクールボランティアサミット」開催を活動の軸に据えて、東京都を中心に全国の学校教育における優れたボランティア体験学習の実践例を収集・分析し、広く紹介している。 また、令和元年度は、10回の月例会（第10回は感染拡大防止のため中止）と「スクールボランティアサミット」に加え、別途、参加対象を広げた「拡大研修会」を開催し、活動の拡充を図った。これは、新学習指導要領がねらいとするものと、ボランティア体験学習がもたらすものが軸を一にすると捉えており、今こそ、積極的に研究会活動を行うことが効果的な好機であると考えからである。本研究会は、地域や社会を舞台にボランティア体験学習を展開することにより、生徒の主体的・対話的で深い「探究」活動を推進できると考えている。「探究」活動が人間力(自助の力と共助の力)を育み、「生きる力」を伸長していくのである。 このことについて、令和元年度の「スクールボランティアサミット2019」では、ボランティア活動を行っている高校生たちがパネルディスカッションで、活動を進める中でより積極的になり、高校生らしい発想で活動を展開し、考えが深まったり、新たな目標ができたりしていると報告していた。 本研究会は、今後、新学習指導要領の全面実施が進んでいく中で、生徒がより主体的に自らの人生を切り拓いていけるよう、効果的なボランティア体験学習の事例収集、研究、紹介といった活動に不断に取り組んでいく。		
その他 特記事項	令和2年度の「スクールボランティアサミット」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催は難しいと考えている。そこで、今年度新たに実施した「拡大研修会」の開催を模索していく。		

令和元年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会活動報告

令和元年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会の活動について、下記のとおり御報告いたします。

【月例会活動報告】

● 令和元年4月19日（金） 16：45～18：30 第1回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：10名

- 内容：1 今年度の研究テーマ、及び研究会の年間活動計画の検討
2 スクールボランティアサミット2019について
3 研究会の組織について
4 「人間と社会」に関するアンケート結果について
5 「人間と社会」及び「探究」活動に関する情報交換 他

● 5月17日（金） 16：45～18：30 第2回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：14名

- 内容：1 研究推進団体支援事業について
2 「人間と社会」及び「探究」活動に関する情報交換 他

● 6月13日（木） 16：45～18：30 第3回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：10名

- 内容：1 令和元年度の会員名簿の確認
2 令和元年度研究紀要の作成に向けて
3 スクールボランティアサミット2019について
4 「人間と社会」及び「探究」活動に関する情報交換 他



● 7月2日（火） 13：30～17：00 第4回月例会 兼 授業見学

東京都立永福学園 校長室 参加者：6名

- 内容：1 特別支援学校の教育課程と「総合的な探究（学習）の時間」の特色について
2 特別支援学校の児童・生徒としての奉仕・ボランティア教育について
3 SDGsの考え方 他

● 7月23日（火） 16：45～18：30 第5回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：10名

内容：スクールボランティアサミットの準備

● 10月18日（金） 16：45～18：30 第6回月例会

東京都立練馬高等学校 会議室 参加者：8名



- 内容：1 スクールボランティアサミット2019の反省
2 次年度のスクールボランティアサミットについて
3 12月13日（金）拡大研修会について
4 研究会ホームページ開設について 他

- 11月26日（火）13：30～17：30 第7回月例会 兼 授業見学
東京都立六本木高等学校 会議室 参加者：6名

- 内容：1 東京都立六本木高校の教育課程や特色について
2 12月13日（金）拡大研修会について 他

- 1月17日（金）16：45～18：30 第8回月例会
東京都立白鷗高等学校 会議室 参加者：8名

- 内容：1 12月13日（金）拡大研修会の反省
2 東京ボランティア・市民活動センター「ボランティアフェスティバル」との連携について
3 研究紀要の執筆分担等について 他

- 2月 4日（火）16：45～18：30 第9回月例会
東京都立向丘高等学校 会議室 参加者：8名

- 内容：1 今年度のまとめ
2 次年度に向けた拡大研修会のテーマの意見交換

- 3月開催予定の第10回月例会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止ため中止

【スクールボランティアサミット2019】

「スクールボランティアサミット2019」を以下のとおり開催しました。

開催日時：令和元年8月7日（水）午前9時から午後5時まで

場 所：東京都立豊多摩高等学校 視聴覚室

参 加 者：117人

講 師：日本女子大学人間社会学部教育学科 田中 雅文 教授

後 援：東京都教育委員会

午前の部の前半は、奉仕・ボランティア教育に取り組む、以下の4校からの実践報告と質疑応答を行いました。

- ①東京都立あきる野学園（特別支援学校）
- ②神奈川県相模原市立旭小学校（小学校）
- ③静岡県静岡市立大里中学校（中学校）
- ④東京都立淵江高等学校（高等学校）

午前の部の後半は、日本女子大学 田中教授に「ボランティア体験学習における『探究』の意義と進め方」をテーマに御講演をいただきました。田中教授からは、地域や社会を舞台に、ボランティア体験学習に取り組むことで、生徒の活動は主体的・対話的なものとなり、自ら課題を見付け、「探究」的になっていく。このことにより、これからの社会を生きていく力を育むことができるといった趣旨のお話をいただきました。

午後の部の前半は、ワークショップ Part 1 として、都立練馬高等学校、開智日本橋学園中学高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、都立稔ヶ丘高等学校の代表生徒、そしてファシリテーターの本研究会事務局長とでパネルディスカッションを行いました。生徒たちは、活動の輪を広げていく中で、新たな考え、取組などの気づきがあったこと、さらに考えが深まったこと、挑戦してみたいことなどについて発表してくれました。その上で、活動で培った力を今後の活動に生かしていきたいなど、決意も話してくれました。

午後の部の後半は、ワークショップ Part 2 として、参加者を違う職種や校種で構成する 7～8 人のグループに分けて行いました。児童・生徒の目線を大切にして、教員主導型ではない学習とはどういったものが考えられるか。児童・生徒の発想や考えを生かし、大切にすることで、積極的な取組を促すことができ、探究心を芽生えさせる方向付けになるのではとの考えが出されました。新学習指導要領の全面実施に向けて、参考になる取組が見えてくるワークショップとなりました。



【拡大研修会】

開催日時：令和元年12月13日（金）午後2時から午後5時まで

場 所：東京ボランティア・市民活動センター A・B会議室

参 加 者：28人

講 師：岡山大学地域総合研究センター 山田 一隆 准教授

拡大研修会は、新学習指導要領が、令和2年度より小学校で、令和3年度より中学校で、

令和4年度から高等学校で全面実施されることを踏まえ、特別の教科「道徳」や「総合的な学習の時間」(小・中学校)、「総合的な探究の時間」(高等学校)における指導の一層の充実を図るため、岡山大学 山田准教授より御講演いただいた。山田准教授からは、児童・生徒がこれからの社会をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する方策として、社会体験活動などの体験的な学びを通して、主体的・対話的で深い学びを実践することの重要性を示していただいた。また、教科横断的な視点や、地域とのつながりを大切にした学校づくりや社会貢献活動の実践事例を御紹介いただくとともに、後半はワークショップで参加者同士意見を交換し合った。山田准教授による拡大研修会は主体的・対話的であり、参加者にとって非常に有意義なものとなった。

【令和元年度の研究のまとめ】

社会貢献活動で児童・生徒が変わる

本研究会の共同研究者でもある岡山大学 山田准教授は、東京都独自教科「人間と社会」の社会体験活動について、活動前と後の児童・生徒の態度特性変化を図るため、都立高校生を対象としたアンケート調査を実施している。その結果、「活動の中で（自分が）役に立っている」、「活動を通じて、自分の問題を解決することができる」、「活動を行うことによって、平等な社会を作りだせる」の3項目が社会体験活動の事後で大きく伸びていた。これらは、自己肯定感や問題解決能力、規範意識や協調性などに関わり、社会をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力である。その意味からも社会体験活動は教育的に重要な活動であると言える。本研究会は、このような分析結果を、社会体験活動の中でも奉仕・ボランティア体験が意義につながると受け止めている。

社会体験活動とボランティア学習

山田准教授は、ボランティア活動の4原則として「自分からすすんで行動する（自主性・主体性）」、「ともに支え合い、学び合う（社会性・連帯性）」、「見返りを求めない（無償性・無給性）」、「よりよい社会をつくる（創造性・開拓性・先駆性）」を挙げており、「人間と社会」の社会体験活動とはボランティア活動ではなく、ボランティア学習の一環であると述べている。ボランティア学習とは、ボランティアについての理解、社会体験活動、ボランティア活動の3つの学習を合わせたものであると定義付けており、「人間と社会」は、ボランティアについての理解と社会体験活動の学習であると位置付け、「サービスマーケティング」と呼んでいる。アメリカで提唱された「サービスマーケティング」とは、「社会活動を通して市民性を育む学習」という教育活動で、「教員が積極的に関わる」、「体験活動を振り返る」など、学びのサイクルを大切にしている。

今後、本研究会が提唱してきた「ボランティア体験学習」と「ボランティア学習」や「サービスマーケティング」との関係を明らかにするとともに、新学習指導要領の全面実施が進んでいく中で、生徒がより主体的に自らの人生を切り拓いていけるよう、より実践に根差した研究活動に取り組んでいく。